

茨城県笠間市の
トウゴクヘラオモダカについて
土屋 守

トウゴクヘラオモダカは本誌25号にて薄葉(1988)の指摘により再認識された。その中でトウゴクヘラオモダカの形態について各部の大きさを記述し、ヘラオモダカやサジオモダカとの比較もされている。

勝山(1990)は神奈川県のとウゴクヘラオモダカについて報告している。両氏ともヘラオモダカとの区別にはトウゴクヘラオモダカの特長として、花序の最下側枝が2本であることを挙げており、標本にすると判りにくくなる花部の形質よりも有効な識別点であると述べている。

私は1993年9月、茨城県笠間市佐白山東麓の小さな湿地にてトウゴクヘラオモダカを見つけた。ミズゴケの生えた湧水地で、キセルアザミ、サワギキョウ、ムカゴニンジン、ヌマゼリ、サワシロギク、コマツカサススキ等の生えているなかに点々と見られた。

ちょうど開花中であり、標本用に幾つかの個体を見ているうちに花序の最下側枝を3本つけたものが2株見つかった。それぞれ一株に2本と3本の花序をつけてお

り、そのうちの1本にこのようなものが見られた。トウゴクヘラオモダカにも花序の最下側枝が3本出ることもあることを知った。

トウゴクヘラオモダカとヘラオモダカの簡易な区別については葉形も考慮すると良い。

トウゴクヘラオモダカは葉身下部は丸みを帯びて葉柄に沿下しないか、またはわずかに沿下し巾広くさび形になる。ヘラオモダカでは葉身下部は葉柄に長く沿下して次第に細くなる。

文 献

- 勝山輝明(1990) 神奈川県のとウゴクヘラオモダカ. 神奈川自然誌資料 11:143-146.
薄葉 満(1986) トウゴクヘラオモダカについて. 水草研究会会報 25:16-19.

OK.Iwatsuki et al ed. "Flora of Japan Vol.IIIa" (講談社発行, 丸善発売, 1993年8月, 482p, 50,000円)

英語で日本のフローラを紹介した本としては、大井次三郎『日本植物誌』(顕花植物編, 1953; シダ植物編, 1957)の英訳版(1965, 1984)があったが、その後の研究の進展を含めた新しい日本のフローラが求められていた。そこでスタートしたのが、英文版日本植物誌編集のプロジェクトである。南西諸島や小笠原も含めた日本の全維管束植物を全4巻7分冊に網羅して1年に1冊ずつ発行すべく編集が進んでいる。その第1冊目が昨年出版された。合弁花の半分を取り扱っていて、科、属、種の記載と検索表、シノニミックリストなどが充実している。写真や図はないが、それぞれの分類群の図がどの文献のどのページに出ているかわかるようになっていた。今回の分冊で取り扱われている水草を含む科はミツガシワ科、ゴマノハグサ科、ヒシモドキ科、タヌキモ科などで、それぞれ担当者が自己の見解にしたがって分類群を整理している。

高価な本なので個人で持つには負担であるが、分類の研究を進めていくためには、どこか手近なところないと困る本である。なお、カタログによると次巻からはもう少し価格が下がる様子である。

(角野康郎)

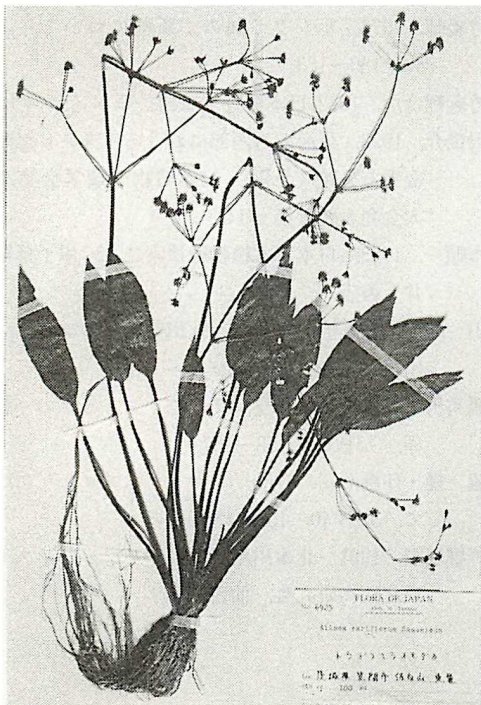


写真 笠間市産のとウゴクヘラオモダカ